

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語、算数ともに「知識・技能」をみるA問題の方が、「活用」の力をみるB問題よりも正答率が高い傾向が続いています。また、平均正答率は、A・B問題ともに全国とほぼ同程度です。
- ・国語では、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことに学習の成果が出ています。一方、目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えること、主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がありました。
- ・算数では、昨年度諸調査から本校で重点課題とした「数量の関係を理解して数直線上に表すこと」に学習の成果がみられます。また、全国や県に比べ記述式問題の正答率が比較的高く、本校で取り組む学習規律、ノートのとり方指導、問題解決型学習の成果がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」について高い数値を示しています。また、昨年度高かった「学校の授業以外に、普段の1日当たりの学習時間が1時間未満」とした子どもの割合が下がり、県や全国平均程度の割合になってきています。
- ・課題となる項目
「学級の友達との間で話しあう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とした子どもの割合が、全国や県の割合に比べて低いです。
「5年生までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」にあてはまらないとした子どもの割合が高いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・国語では、発表原稿や報告文を書く際に、伝えたいことを適切に、または効果的に伝えるために、教科書に出てくる説明文の指導と関連しながら、学年に応じた構想・構成指導を重視して行います。読むことの指導では、根拠となる文章に線引きし、要点をまとめたり、簡単に要約したりする学習を積み上げます。
- ・主語と述語の正しい照応を確実に習得するために、日常生活上で実感を伴う学習を取り入れていきます。
- ・高学年児童が、自分の考えを作文に綴り、相手に効果的に伝えられるように推敲を重ねて発表する「お話タイム」を、引き続き継続して毎週木曜日の給食時に全校放送で行います。話し手は考えを伝える力を磨き、聞き手は仲間の発表に学びます。
- ・算数では、学習規律、ノートのとり方指導、問題を数直線に表すこと、考えを文や式を使ってノートに表現すること、問題解決型学習の成果がみられるので、今後も全学年で取り組みを継続していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」も活用し、子どもたちが自らの学習に自主的に取り組めますよう、引き続き温かいご支援をお願い致します。
- ・ゲームや携帯電話、スマートフォン等の使用時間を再確認し、時間のルールを守らせましょう。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事を知り、自分の考えが持てるように、親子一緒にニュースや新聞をみたり、家庭で話題にしたりしましょう。